北海道の木造建築(2)(完)

北海道大学工学部建築工学科教授　越　野　　武

前回は江戸時代の名残りをとどめている日本海沿いの代表的な建物と，北海道の近代木造建築技術の発展に大きな影響を与えたバルーンフレーム工法（開拓使が取り入れた建築工法）による木造建築物を紹介いたしました。引き続き北海道の代表的な木造建築を紹介いたします。

Ⅲ　木造洋風建築のひろがり

私たちの非常に身近かな所にも，木造の洋風建築物がいろいろな形で建っています。月形町には樺戸集治監庁舎（明治19年）があります。洋風建築と言っても，例えば**豊平館**のようにきれいにペイントを施しているものもありますが，札幌から離れたり，北海道の内陸部に入りますと，この集治監庁舎のように洋風建築の多くはペンキも塗らずに素木のままで使用されているものもあります。江差町には**旧檜山爾志（にし）両郡役所**（**写真９**，明治20年）があり，道の文化財に指定され，３年かけて修復される予定です。その時には，モダンな建物に生まれ変わって皆さんの目に触れることでしょう。その他にも，喜茂別町の駅逓（明治40年，現開拓の村），**旧妹背牛村役場**（**写真10**，昭和６年），**旧鷲田農場事務所**（**写真11**，明治43年，深川市），斎藤牧場事務所（明治36年，浦幌町），**立岩家住宅**（旧細野農場事務所，**写真12**，大正２年，当麻

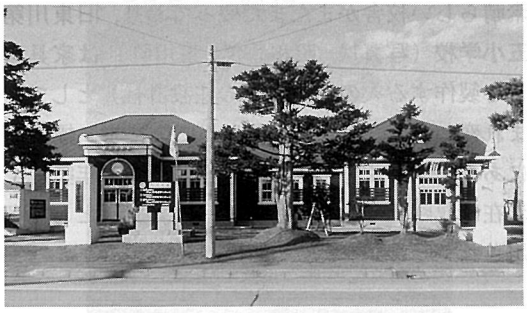

写真10　旧妹背牛村役場

写真11　旧鷲田農場事務所

写真９　旧檜山爾志両郡役所

写真12　立岩家住宅

町）などをお見せします。

木造建築で一番身近なものと言えば，小中学校などの校舎だと思います。昔は校舎といえば，木造が当たり前でしたが，最近では目に触れる機会が極めて少なくなりました。大正時代の初めに建てられた浦河町の旧西舎小学校（大正３年）は，現在はピスカリ館という名称で，青少年の研修宿泊施設として使用されています。修復され，あっと驚くほどきれいになり，とてもモダンな建物に生まれ変わりました。**旧鷲田農場事業所**のすぐ裏に隣接していた**旧向陽小学校**（**写真13**，昭和11年）は，数年前に廃校になり，再利用方法を模索しているということです。数は非常に少ないのですが，素晴らしい校舎がまだまだ残っており，**旧東川第五小学校**（**写真14**，昭和３年，東川町）は家具などを製作する人の工房（北の住設計社）として生まれ変わり，第二の人生を歩んでいます。標茶町にあります旧北方無去小中学校（昭和49年築）も，現在は北欧館という名称で木工家具工房として利用されています。

写真13　旧向陽小学校

写真14　旧東川第五小学校

Ⅳ　和洋木造建築名作選

北海道の各地には，さまざまな立派でしかも庶民的な木造建築物がたくさんあり，それぞれの市や町や村で特色のある木造建築文化を形作っています。

函館には，明治16年に開拓使が設計した**旧函館県博物館**（**写真15**）があります。函館は北海道の中でも伝統のあるところで，同じ洋風建築でも相当手の込んだことをやって来たし，それを最後まで守ってきたところと言えるでしょう。明治40年に大火に見舞われていますので，それ以前の古い建物は少ないのですが，さすが函館，というような建物をたくさん見ることができます。函館の元町にある，今でいうと渡島支庁舎，当時の**北海道庁函館支庁舎**（**写真16**，明治42年）はすばらしい木造建築物でした。最近火災を起こしましたが，現在では修復され，この４月からは函館市写真歴史館として再出発しました。そのすぐ裏手にあります**旧函館区公会堂**（**写真17**）は明治43年に建てられましたが，これが現在残っている道内の木造洋風建築物の一番華やかな時代の遺産と言えるのではないでしょうか。レンガ造を主とする防火構造の建築が非常に早くから発達していましたので，大正期までには木造の大きな建築物は町の中心部では少なくなりました。明治から大正にかけての木造の最後を飾る建物が大正５年に建てられた**相馬会社社屋**（**写真18**，大正５年）です。ルネッサンス風のディティールが窓，扉に表現されており，線がきちっとしています。また，**和洋折衷の町並**

写真15　旧函館県博物館

写真16　旧北海道函館支庁舎

写真17　旧函館区公会堂

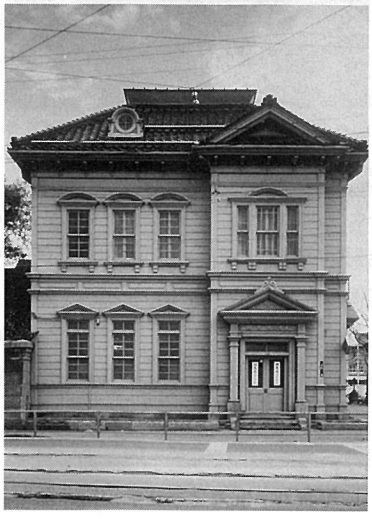

写真18　相馬会社社屋

写真19　函館の和洋折衷の町並群

写真20　和光荘

写真21　珠久小児科医院

写真22　川合文化住宅

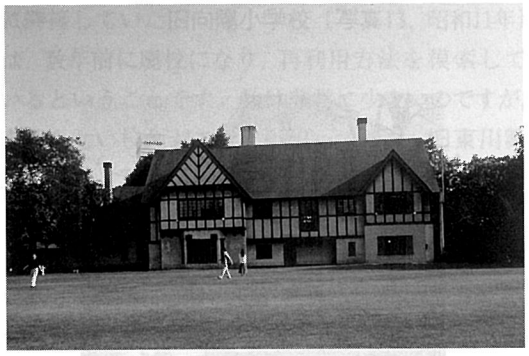

写真23　旧三井クラブ

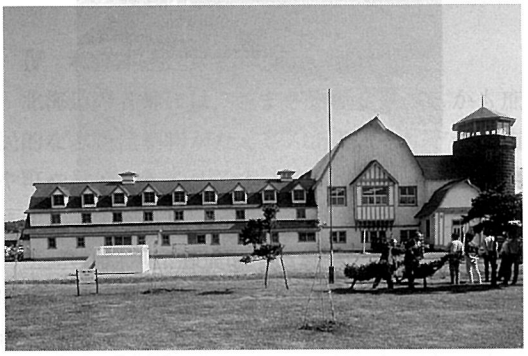

写真24　旧真駒内種蓄場牛舎

写真25　日本製鋼所瑞泉閣

写真26　旧旭川偕行社

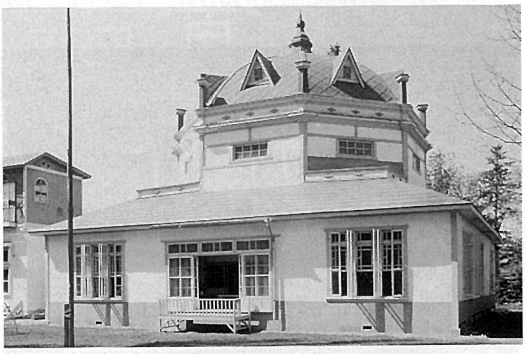

写真27　双葉幼稚園

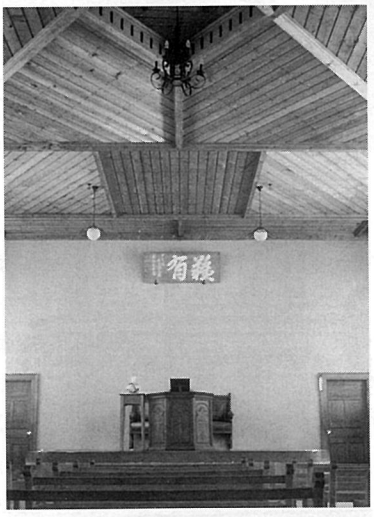

写真28　北海道家庭学校礼拝堂

写真29　網走監獄講堂

写真30　永専寺山門

群は今も健在です（写真19）。

小樽は函館同様，特徴的な建物が多い街です。最初にお見せするのが，**和光荘**（写真20，大正後期）という北の誉酒造株式会社の社長さんが建てた建物です。内部の造作にはいろいろ工夫がなされており，木造住宅としては，非常に精緻な感じがします。祝津には網元の伝統的な木造建築物である旧青山別邸（大正12年）が，山の手から港の方へやや下りた中心部には**珠久小児科医院**（旧勝田病院，写真21，大正初期）が，また，昭和６年に建てられた木造の辰巳アパートや庶民的なモダン建築物の**川合文化住宅**（写真22，昭和初期）などもあります。

札幌に**旧三井クラブ**（写真23）として昭和11年に建てられた建物は，現在は知事公館として使用されています。真駒内にあります自衛隊真駒内駐屯地庁舎は，**旧真駒内種畜場牛舎**（写真24，昭和12年）を改装して有効に利用しています。アメリカ軍が摂取した時，駐留軍の将校のクラブにこの牛舎を提供して，その時の細工が現在でもきれいに残っています。アメリカの将校がこの牛舎を見て，即座にクラブに変えてしまうセンスは素晴らしいものだと思います。同じタイプの牛舎として，旧町村牧場（昭和２年）があります。

室蘭には**日本製鋼所瑞泉閣**（写真25，明治44年），栗林商会の先先代が建てた薫山荘（明治42年）もあります。

旭川には現在市立彫刻美術館として使われている**旧旭川偕行社**（写真26，明治35年）があります。豊平館を連想させるおしゃれな建物です。

帯広では**双葉幼稚園**（写真27）という大正11年に建てられたモダンな幼稚園が現在も健在です。

遠軽にある**北海道家庭学校礼拝堂**（写真28，大正８年）は素木を使った森の中のチャペルです。

網走監獄講堂（写真29，明治45年）は現在博物館として，多くの人が訪れています。また，網走市にある**永専寺山門**（写真30，明治45年）はもと網走刑務所の正門として使われていたもので，木造のアーチと江戸風技術とを組合わせた実に興味深い建築物です。

おわりに

こうして見てくると，北海道にもずいぶんたくさんのおもしろい木造建築が建てられてきたのがわかります。最近は，例えば小学校の校舎でも，木造が見直されています。一方で木造の廃校舎がいっぱい放置されたり，取り壊されていて，ちょっと複雑な気がしますが，木の良さが再評価されるのは大変嬉しいことです。今ご紹介したような，バラエティに富んだ木の使い方を，これからも活かしていって下さい。そのためにも身のまわりの昔からの木造建築を大切にされ，また訪れて眺め，楽しんでいただければと思っています。

（文責　林産試験場　松本　章）